

平成19年度 同窓生の集う会開催!

HIJ Alumni Association Journal 八戸工業大学 同窓会報

今年度も毎年恒例の同窓生の集う会を開催します。一昨年はシビル会(土木同窓会)と拓北会(建築同窓会)、昨年は着峰会(機械同窓会)と水交会(電気同窓会)が中心となって企画・開催しましたが、今年度は

学匠会(エネルギー・生物同窓会)うみねこ会(システム情報同窓会)が実行委員として企画しています。

同窓生の集う会では第一部の講演会と第二部の懇親会を行います。第一部の講演会では長年エネルギー・生物環境科学工学科で教鞭を執っておられる小山信次教授をお招きして青森県の名産品であるホタテ貝殻を利用した製品開発についてお話しして頂きます。第二部の懇親会では多数の教職員をお招きして本学吹奏楽部の演奏や少林寺奉法部の演舞などのほか、退職された教職員を含めたビデオレターを放映する予定です。詳細については、左記の要領で行います。特に学匠会およびうみねこ会の同窓生が多数参加しますので、皆様のご参加をお待ちしています。

なお、同窓生の集う会(講演会、懇親会)へのお申込みは、同封ハガキか下記のE-mailでお願い致します。



エネルギー・生物および情報の同窓生が大勢集まるぞ!!

本部連絡先 E-mail : dosokai@hi-tech.ac.jp

●開催日● 平成19年11月10日(土)
●会場● 八戸グランドホテル
〒031-0031 八戸市番町14番地 TEL: 0178-46-1234

■第一部 講演会 18時~
講演者: 小山信次 教授
講演題目: 「ホタテ貝殻セラミックスの機能性を応用した製品の開発」

■第二部 懇親会 19時10分~
*講演会に引き続き行います。

*集う会終了後、独自のクラス会を企画している卒業生は同窓会本部事務局までご一報ください。企画・開催を積極的に支援します。



QRコードを読み込むと携帯に情報を保存できます。

第12号
3月・9月発行
八戸工業大学
同窓会本部事務局
TEL: 0178-25-8027
FAX: 0178-25-6183



平成19年同窓会実行委員 浜部 弘毅さん

浜部です。

卒業生、卒業見込みの皆さん、日々ご苦労様です。今年で七回目になる集う会が、十一月十日に迫っております。この会は毎年、盛況に行われており、うみねこ会と学匠会が、今大会を盛り上げます。小山教授の講演、ビデオレター等、オプションも盛り沢山です。

近年の少子化は、八工大も影響を受けています。大学を盛り上げる為にも、出席して大学に元気を与えてください。皆さんの御息を母校に入学させてもよいか、判断する為にも、万難を排しての参加を、お待ちしております。

平成十八年度に財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受け、『機構が定める大学評価基準を満たしている』と平成十九年三月二十九日付けで認定されました。

大学機関別認証評価(JIHEE)に認定!



認定期間は、7年間(2006年4月1日~2013年3月31日)となります。

同窓生のこ子女、弟妹の入学金減免

大学の良き理解者であり最大の支援者である同窓生のご要望のもとに、ご父母の入学時の経済的ご負担を軽減すべく、同窓生のこ子女、弟妹を対象に入学金の減免措置を実施しております。

同窓生各位の身近な方に八戸工業大学をお勧めして頂きたく、この減免措置を実施するものであり、是非、ご活用賜りますようお願い申し上げます。

●対象

同窓生のこ子女、弟妹

●減額対象

入学金二十五万円を
十七万五千円減額し、
七万五千円としております。

お問い合わせ先

八戸工業大学 入試課
電話
〇一七八二五八〇〇〇(直通)

建築工学科 拓北会

OB・OGだより



建築工学科 十九期生 荒井 文善さん

あれから十年が過ぎ去った。友人たちと共に学び酒を酌み交わし、夢を語りあった4年間の大学生活。大学を卒業し弘前市の建築設計事務所勤め、その思いを糧に過ごした十年は実り多き充実したもので、振り返ればあつという間にすぎたように思う。ゼロからものを生み出す事の苦しみとがき。そ

神社総代会の研修会を建築棟教室で開催

現代は大学と社会が交流する時代、七月に珍しい研修会が建築棟の教室で開催された。宮城県神社総代会の方々四十五名の参加による神社建築の研修会である。拓北会OB四期生の佐藤廣喜さんがこの研修会の世話役を担当され、卒業以来二十四年振りに大学を訪問された。佐藤廣喜さん



は、現在、宮城県庁の技術主管として総務部管財課で活躍されている。佐藤さんの近年の活躍は、みやぎ版住宅の推進などでも知られている。研修会の講師は、OB教員である高島成佑先生と伊藤敬一先生が務

してそれ以上の生み出したときの楽しさと喜び。建築を創ることのでられる、ある種の麻薬のような魅力に取り憑かれてしまっている。また大学生活を送っていた頃は雑誌をみながら、中央の華々しい街や建築にばかり思いを馳せていたが、弘前市に暮らし学んでゆく中で、この青森県という地域風土の魅力によりいつそう感じる様になった。それは建築単体のみならずアートや街、人や環境といったような様々なファクターと建築とを繋ぐエネルギーがここには潜んでいる様な気がする。それを体感する事の出来た大きな要因のひとつとして、昨年弘前市で開催された「YOSHITOMO NARA + Graf Atozi」という弘前出身でアーティストの奈良美智さんの展覧会がある。私は幸運にもボラン

ティアとして深く関わることができ、普段の設計作業の進め方や、建築の創り方とは全く違ったものづくりのあり方に関わった事でよりいつその刺激を受け、またこの地域の持つ大きなエネルギーの様なものを感じる事が出来た。様々な分野の様々なプロフェッショナル達が創り上げていく世界で唯一の展覧会。実行委員会の立ち上げから運営。そして日本のみならず、世界で活躍する奈良さんほかのアーティストの作品や、それを作り上げていく姿勢を間近で感じる刺激は、ほかのなにから受ける事の出来ない唯一無二のものだったと思う。八戸工大に入学することで繋がりが続いている青森県との繋がりが。そして繋がりが続ける事で得られる様々な刺激。この先十年二十年、よりいつそう様々な刺激を受け、また多くの諸先輩方に教えを請いながら私が創る建築にそれを生かす為によりいつそう学び続けて行くと思う。



められた。高島先生と伊藤先生は、体調を崩されて定年を待たずに一昨年に退職されたが、通い慣れた教室でいずれも現役時代の名講義を披露された。高島先生の講義は「神社建築の特徴と櫛引八幡宮」、伊藤先生の講義は「社寺建築の耐震改修」をテーマに進められた。神社総代会の方々から

陳先生、建築学会 青森支所で講演

日本建築学会東北支部青森支所の全員協議会で、「S-Art」と現代建築技術の紹介」の題名で講演致しました。二十数名の参加者と楽しく交流できまして、有意な一日を過ごしました。講演会後の懇親も大変盛り上がったもので、深夜電車まで見送りいただいた大先輩に感謝いたします。参加者皆様の熱意に感動しましたが、二十代前半の若い会員が少ないことに対して「美中不足」と感じています。より多くOB・OGの青森支所のご参加、ご活躍を期待しています。

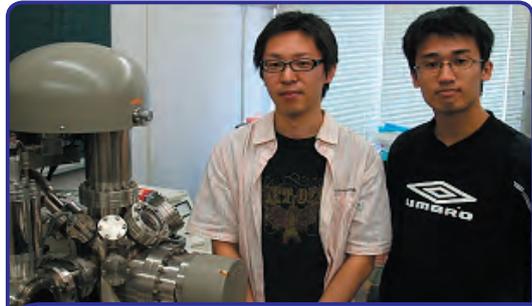
さて、S-Artという名前の由来は、Structure(構造)の頭文字とArt(芸術)を合わせたものです。その理念は力学原理、形態デザイン手法そして材料特性を用いて構造形態を創出し、設計者の意志を表現することです。そのプロセスは構造体の安全性と合理性を求めながら、力

学的美を追求する人格的行為です。講演会では、貝殻や蜘蛛の巣、樹木構造、石鹸膜などの面白い自然構造体の科学原理を利用した建築構造、コンピュータ技術で創生した構造体紹介しました。S-Artの延長線として、北京オリンピックの施設や海外の実例を簡単に紹介しました。来年二月にもう一回講演して下さいという声も上がっているのです、青森建築界を更に盛り上げるように努力したいと思っています。「藍より出でて青」を楽しみたいと思います。構造をもっと身近に楽しく学ぼうという目的で平成十九年度卒業研究生を中心に「S-Art研究会」が大学内に発足しました。活動内容は学生の自由な発想、想像力と創造力を生かし、ユニークな構造体を模型でつくりまします。身をもって構造の原理を理解し、直感認知と理論誘導を接合して建築構造を深く理解させます。今後の活動へのご協力とご指導をお願いします。は、地震災害の時代を背景に、耐震診断や耐震改修について助言が求められた。最後に、両先生の近況を報告。高島先生は、八戸住まいで青森県の文化財審議委員会などの委員を努めながらの療養生活。伊藤先生は、出身地の仙台での療養生活だが、青森県の社寺建築や木造住宅の耐震診断技術委員会などで指導に当たられている。

電子知能システム学科 水交会ニュース

OB・OGだより

今春私たちは世界で初めて白色有機ELパネルの量産を行っている東北デバイス(株)に入社しました。八戸工大で学んだ知識、特に藤田研究室で卒業研究のテーマとして行った有機ELの研究は、入社後大いに役に立



久保寿太さん(左)と徳差史哉さん(右)
平成十九年電子知能システム学科卒(藤田研究室)
現在:東北デバイス(株)
八戸工大 FPD 関連次世代型技術者養成ユニット

ついています。まさに、大学で学んだ四年間は確実に自分の糧になったといえます。入社と同時に、文部科学省から選定された八戸工大のFPD関連

次世代型技術者養成ユニットへ入学しました。これは産学官共同で、FPD(フラットパネルディスプレイ)関連の新製品・新技術開発に必要な次世代型技術者を養成するものです。期待される次世代型技術者は、FPD関連技術に関する高度な専門知識を有し、技術を融合・統合できる新たなタイプの実践的な研究開発型技術者です。このユニットの中で、FPDに関する幅広い知識・技術を習得し、狭い枠にとらわれない新しい技術者になりたいと思っています。といつても今は入社一年目の新入社員で、半人前どころか三分の一前にもなっていないかもしれません。八戸工大の卒業生として恥じないよう精進していきたくと思っています。

学科近況報告 資格支援講座開講

本学科の学生は、在学中に所定の単位を修得し、卒業後に所定の実務経験を積んだ後、申請によって電気主任技術者の免状を取得することができますが、学生には実力をつけさせるために、在学中に電気主任技術者試験(電験)に挑戦させています。その支援の一環として、本学科では電験三種合格を目的とした夏期集中講座を開講しています。今年八月一日(水)〜八月七日(火)に実施し、一学年から四学年までの全学年に亘り五十名



を越える意欲ある学生が受講しました。講義では、国家試験のポイントを押さえた中身の濃い実践的指

研究室探訪



坂本研究室

卒業生の皆さんこんにちは。皆さんはそれぞれの分野で活躍のことと思います。小生は、昭和六十一年に本学に赴任して以来、二十一年余りが経ちました。研究室では、この春までに学部学生百九十九名、大学院学生十一名の卒業生、修了生を送り出しました。その間、一貫してパラメトリック発振を利用したモータ、発電機、変圧器、センサなどの研究、並びに電気自動車の作製、モータ制御、環境磁場測定などいろいろな研究を皆さんと共に行ってきました。最近では、パラメトリック発振を使って、単相電源から三相の電圧を発生する三相パラメトリックモータの研究を推進しております。課外活動としては、毎年、皆さんとスポーツを楽しんできましたが、体力の衰えと共にやらなくなりました。ただ夏のキャンプは三数年継続しております。卒



横地研究室

卒業生の皆様お元気ですか。卒業生の皆様の各地で活躍されて居られること等の近況を年賀状等であらせて頂いて居ります。当研究室で行っている研究テーマは、最近では磁性材料に関する研究はやめて、主なテーマは「室内照明の基礎」と「教育用ロボットに用いられるDCモータの制御」の二つを行っています。特に「室内照明」は、最近では生活環境に合った照明、省エネルギーな照明が求められています。家庭用照明は改良されていますが、卒業研究として学生と一緒に小型の暗箱を作りデータを取っています。「教育用ロボットに用いるDCモータの制御」は小型DCモータの速度制御に関するテーマですが、小中学でも理解できる回路を目標に頑張っています。皆様の益々の発展とご健勝をお祈りいたします。

業生の皆さんの飛び入り参加を心待ちにしております。皆さんのご健勝とご活躍をお祈りいたします。

システム情報工学科 うみねご会ネットワーク

「システム情報コース」 が「JABEE」認定

平成十九年五月十四日、システム情報工学科の教育プログラム「システム情報コース」が日本技術者教育認定機構（JABEE）から認定を受けました。これにより、この三月に本学科を卒業した「システム情報コース」の修了生から、技術士一次試験の受験が免除され、技術士補の資格を取得することができます。さらに、この認定は国際的協約に

基づくもので、米国、英国、カナダ、オーストラリアなどの加盟国間で相互認定されます。国際的に仕事をするような場合に、本コースを修了することで技術者としての保証



東北初ハイビジョン・シアターの完成

本学科の情報メディアコースの設備として、103インチ・フルハイビジョンのプラズマディスプレイを備えたハイビジョンシアター（ハイビジョン劇場）が完成しました。東北地方では初めての設備です。本体の他に、ブルーレイ録画・再生機を備えていて、45GB（従来のDVDの十倍）のコンテンツを記憶できます。昨年度の卒研究生が制作した三大祭、えんぶりなどのハイビジョン・コンテンツを上映したところ、大画面はさすがに素晴らしい迫力を与えてくれました。

が得られたこととなります。また今回の認定は、「情報および情報関連分野（Information Engineering）」であり、この分野での認定は東北地域の私立大学では初めてのことで

新任教員紹介



清水 能理 助教

この四月から清水能理先生（博士（工学））が当学科に着任されました。先生の専門は、広い意味では「システムと制御」に関する分野です。具体的には、知識工学のニューラルネットワーク、フuzzy論理、遺伝的アルゴリズムなど、知能情報理論をシステム制御に融合した新しい理論構築です。これまで、株価の変動、上水道の水流、血流の脈動など、制御のための現象予測に取り組んでこられたそうです。現在は、ネットワーク社会で重要となる情報セキュリティに役立つ秘匿通信システムの構築や信号の暗号化法に、知能情報を応用する研究をされています。担当講義は、シミュレーション工学、アルゴリズム、OS概論などです。

資格取得支援の充実

■ CC-ARTS 協会認定教育校
■ オラクルアカデミー加入

さらなる充実を目指してCC-ARTS協会の教育認定校およびオラクルアカデミーへ加入しました。

CC-ARTS 協会は、「CGクリエイター検定」、「Webデザインナー検定」、「CGエンジニア検定」、「画像処理エンジニア検定」、「マルチメディアシステム情報工



学科では、これまでCCNA取得を目指したシスコネットワークエンジニアアカデミーの導入や情報処理技術者試験の支援などの資格取得支援を行ってききましたが、

「ア検定」、の5つの検定を実施している団体で、認定教育校とはCC-ARTS協会の教育カリキュラムを実践する教育機関のことです。

また、オラクルアカデミーは、



オラクル社が提供するソフトウェアやカリキュラムを用いてデータベース教育を行うことができる教育プログラムです。オラクルアカデミーに加入することにより、数十万〜数百万円のオラクル・ソフトウェアおよびサポートが無料で

提供され、OCRAオラクルマスター）試験を40%割引で受けることができます。ようになります。

システム情報工学科では、CC-ARTS協会の認定校およびオラクルアカデミー加入校として、それぞれの分野での資格試験合格を目指しています。

「助教授」は「准教授」に

大学などの高等教育機関で、4月から学校教育法の改正により、いまままで「助教授」という名称が一斉に変更になり、新たに「准教授（じゅんきょうじゅ）」という名称に統一となりました。

「助教授」の意味合いは、「教授

を助ける」というものでしたが、現在の実態にあわず、また国際的にも名称が通用しなかったことから、国際的にも標準とされる「准教授」となりました。

また「助教」という新しいものも設けられ、「准教授」「助教」という新しい名称に、これから馴染んでいく事になるかと思えます。

機械情報技術学科

蒼峰会だより

学科の「今」
太田 勝 講師

2000年に本学大学院博士後期課程を修了し、当時の機械工学科の助手として配属され、七年目となりました。もともと電気電子工学専攻でしたので、学部時代も合わせて九年間、機械棟の隣の電気棟で勉強しておりましたが、電気と機械ではいろいろな面で異なることが多く、戸惑うこともありましたが、機械情報技術学科の先生方いろいろなご指導頂き、現在も勤務し続けております。

学科内では、電気工学科出身ということもあり、電気、情報関係の授業を担当しており、体験学習の一つである「パソコン工作学」も担当しております。この講義は一年生の学生がパソコンを部品から作製し、OSやアプリケーションソフトのインストールまで行い、自分で作ったパソコンを使って大学生活で必要となるコンピュータの知識を勉強するものです。この講義を担当している関係で、講義で使用しているITルームの管理も行っています。以前は製図室として利用されていた二階の部屋を改装し、パソコンが八十四

台設置されている立派なコンピュータルームとなっております。この部屋のパソコンはすべて学生が作製したもので、講義以外の時間は、学生



りました。この大会は工作技術センターの職員の方々と木村克彦先生のご尽力により開催が始まり、その後、小野陽先生が操縦のみで動くロボットを自走で動くよう

に改良しており、ロボットの性能が年々上がってきています。記念大会ということで、三年生の科目なのですが、一・二・四年の代表チームも参加して盛大に行う予定です。卒業生の皆さん、ぜひ大会を見に来てください。お待ちしております。

の実験レポートの作成、就職検索などに利用しています。

他にも機械情報技術学科では「エンジン解剖実習」、「モデルロケットの製作、打ち上げ」、「ロボットコンテスト」などの体験学習がありますが、その中でも「ロボットコンテスト」は本年度十周年ということと十二月に記念大会を行うこととな



新任教員紹介

同窓生の皆様、はじめまして。この四月に八戸工業大学工学部機械情報技術学科に講師として着任いたしました工藤と申します。出身は青森県弘前市です。前任の弘前大学より、八甲田を越えてやって参りました。専門は火災安全工学および燃焼工学であり、火災の拡大と消火に関する研究を行っております。簡単に申し上げますと、燃料の端に火をつけると他端へと広がってゆく「燃え拡がり」現象に関する研究です。武田信玄の旗印に「侵略すること火の如し」というのがありますが、これを科学的に調べるといえるのです。また、環境に優しい「ウォーターミスト消火設備」を一般家庭に簡単に取り付けできるようにシステムの開発にも取り組んでいます。



工藤 祐嗣 講師

走行で、昭和五十七年式のスズキムニーで山を走り回っています。この車は今ではほとんど無くなってしまった2サイクルエンジンを搭載しており、出力は小さいですが、吹けあがりの良さ、重量の軽さとトルクの太さによる走破性の高さが魅力です。しかし、古い車ゆえに故障も多く、修理や整備も自分で行っています。このような自動車好きが学科長の齋藤先生や自動車工学コースワーキンググループ長の大黒先生の目に留まったためか、現在機械情報技術学科で取り組んでいる自動車工学コースの国土交通省からの整備士養成施設認定取得に携わっています。自動車工学コースは今年度新設された二級自動車整備士資格取得を目指す教育を行うコースです。間もなく工作技術センター隣に自動車工学センターの建屋も建築され、今年度入学生が二年度に進級する来年度からは自動車工学コースの教育が本格的に始動します。自動車工学コース生を社会に送り出す頃には、本学卒業生の活躍するフィールドがさらに広がるものと期待しております。

若輩ゆえ至らない点も多々あるかとは思いますが、教育・研究に一杯努力していく所存ですので、皆様からのご指導・鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。最後とになりましたが、同窓生の皆様のご活躍とご健勝を心より祈念申し上げます。

八戸工業大学学匠会通信

P←Bになって変わったこと

平成十九年度から生物環境化学工学科(B)の学科長となりました伊藤です。枕詞のように口から出てくる、十八才人口の減少の流れの



学科長 伊藤幸雄

中で、私たちがやるべきことは何かと考えると、それは学科における学習教育活動の改善とそれによる学生諸君の満足度の充実です。教職員一人一人が真摯に一つ一つの課題を地道に解決していくことが学科と私がやるべきことです。もちろん、このことは多くの卒業生、在学生、受験生、および保護者の皆様方に賛同を得たものにならないければ何にもなりません。そのためには、今後とも皆様方の暖かく厳しいご指導・ご鞭撻を仰がなくてはなりません。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

さて、私が前回に学科長になりましたのは二十年以上の伝統を持つエネルギー工学科(P)の最後の五年間のはじめの四年間でした。任期最後の一年間は、大学の方針もあり、P科を現在の生物環境化学工学科(B)へ変更するために考え

をめぐらして言いました。なぜかと言えば、それはP科入学者数の大幅な落ち込みでした。本学においては、化学系学科がないことと他学科との競合を避けるために生物系・環境系に配慮した化学工学科、すなわちB科がつけられました。

B科では今年度からは、「生物環境工学コース」と「化学工学コース」の二コース制を前面に出し、「生物環境工学コース」では生物系・環境系の科目を中心に学び、将来はバイオ・食品産業・環境分析等の企業などに就職できる体制を、「化学工学コース」では化学工学系・環境系の科目を中心に学び、化学工学・食品製造プラント等に関わる技術者として企業などに就職できる体制をとっています。今はまだカリキュラム上で不十分な面が多々ありますが、平成二十二年度からはより充実した編成にしていくつもりです。

例えば、P科の学生諸君は大学内でも際立った特徴を持つ学生が多く、いろいろな分野で活躍したり、国際性を身につけたりとずば抜けた存在でした。

「着任のあゆみ」

P←Bになって何が変わったかと言えば、すべては大きく変わりました。しかし、P科卒業生・在学生も、B科卒業生・在学生も何も変わってはいません。もちろん私たち教職員もそうです。偉大なる先輩であるP科卒業生は、新米のB科卒業生・在学生を今後ともやさしく導いてください。また、新米のB科卒業生・在学生は、頼もしい先輩が社会で活躍していることに安心し、大いに頼りにしてください。私たちが教職員もバックアップします。最後に、P・B科皆さんのご健康とますますの活躍をお祈りします。



准教授 鶴田 猛彦

この四月、生物環境化学工学科に准教授として着任致しました。鶴田猛彦です。これまでは、福岡の東和大学におりました。これまで、いくつかの地を転々と、一時、埼玉や東京、神奈川、静岡に住んだことはあるものの、そのほとんどを九州で過ごして来たため、八戸がどのようなところか、特に冬の雪が心配でした。初めて八戸に来た日(採用面接当日)は、福岡ー青森の直行便を利用しましたが、福岡空港で「当便は、青森地方の天候が雪で視界が悪いので、福岡空港に引き返すことも有得ることをご了承の上、ご搭乗下さいませ」というアナウンスにびくびくしながら搭乗し、何とか着陸できるということで安心したものの、青森空港から駅に向かうバスの中の人たちの長靴姿にビビりまくりました。JRで八戸に到着すると、雪はだいぶ減っていたものの、八工大のキャンパスも人の通らないところは雪が積もっており、私にとっては大いなる驚きでした。赴任後も春というのに、夕方、車の窓ガラスの表面が凍っているのには驚きました。しかし、想像していたような屋根の雪下ろしなんてことは、太平洋側ということもあって、まず無いと聞きホッとしたところでした。しかし、まだ一冬を過ごしておりませんので不安ではあります。

「同窓生の集う会」開催について

体内で有害な過酸化物を消去する物質を作らせたり、鉱山廃水に含まれる金属を取り除いたりする研究を行ってきました。ウランやトリウム、プルトニウムの除去についても研究してきました。生物環境化学工学科という学科にはかなり関連のある研究をやってきたと考えておりますので、これらの知見を教育や卒業研修などに生かしていきたいものと考えています。南国育ちではありますが、この地に家族共々引越してまいりました。精一杯頑張る所存ですので、同窓会の皆様の御指導、ご鞭撻を願ひいたします。

同窓生が一同に集まって親交を暖める恒例の「同窓生の集う会」は、エネルギー工学科同窓会(生物環境化学工学科同窓会)およびシステム情報工学科同窓会が幹事となり、11月10日(土)八戸グランドホテルで開催します。当日は、「ホタテ貝殻の有効利用」で有名な小山信次教授に、最新研究について講演していただく記念講演会のほか、色々な催し物も計画しています。また、多数の先生方も参加して下さる予定です。是非、お誘い合わせてご参加下さるようお願いいたします。参加申込は、別記の「同窓生の集う会」開催案内の欄をご確認下さるようお願いいたします。

環境建設工学科

シビル会通信



八戸市と岩手県久慈市を結ぶ八戸・久慈自動車道（八戸南道路）の八戸南IC（種差海岸階上岳IC）（延長3.4km）の部分開通を記念し、平成十九年六月九日（土）「八戸南道路ウォーキング」および十日（日）「道フォーラム」を開催しました。

公開講座「八戸久慈自動車道部分開通記念行事」開催



ウォーキングには、一般の方三百名以上の方に参加していただき、開通目前の自動車専用道路を歩いていただきました。道フォーラムでは、百名近くの方に参加いただき、道路建設に係わる最新技術の発表および現地見学会が行われました。

なお、公開講座を開催するに当たり国土交通省 東北地方整備局 青森河川国道事務所の多大なるご支援を頂きました。改めて感謝申し上げます。

金子准教授 インテリジェント・コスモス奨励賞受賞

金子准教授（地盤工学）が「粒子-水連成系のマルチスケール解析手法の開発とその地盤工学問題への応用」と題した研究課題にてインテリジェント・コスモス奨励賞を受賞しました。

同賞は、東北地域に芽生えている独自の科学技術のシーズを発掘し、基礎研究の充実と研究成果を

通じて産業界及び地域社会における実用化・新規事業の創出等を図るため、東北地域の活性化、発展に寄与するような研究に取り組んでいる若手研究者に対して授与される賞です。

受賞者十名のうち私立大学では唯一、また、建設系で唯一の受賞でした。

一期生工藤嘉範さん 秋田県議会議員に当選！



昭和五十五年三月、八戸工業大学の土木工学科第一期生として卒業以来、早いものでもう二十七年以上の歳月が過ぎた。卒業と同時に秋田市都市建設公社に勤務し土木技術者、そしてサラリーマンとしての歳月。仕事も充実し、家業である農業を営み趣味を楽しみ、地域活動にもそれなりに協力し生活を送ってきた。

今年4月の秋田県議会議員選挙出

新任教員紹介

はじめまして、平成十九年三月に北海道大学を卒業し、今年四月より新たに着任しました、迫井裕樹と申します。出身は広島県ですが、ご縁があつて今年四月よりこ八戸工業大学でお世話になっています。専門はコンクリート工学（材料）で、これまでにコンクリートの耐久性、特殊環境下にあるセメント系材料の物性、劣化構造物の目視評価に関する研究に取り組んでいました。近年は主にコンクリートの耐久性（塩

馬の転機は、議員生活三十二年の父引退によるものであるが、五十歳を目前にしての決断は家族を巻き込んで、人生のターニングポイントであった。選挙期間中は、未熟なこの私に実に多くの励ましと貴重なご意見を頂戴し、父が長い間歩いてきた道の、壮絶さ偉大さ、多くの方々から愛されてきた日々の感謝が日ごとに増し、大変な重圧も感じたが、おかげさまで多くの方々から、今回の選挙は父同様の応援を賜り、秋田県議会議員初当選の栄誉を皆様から与えて頂くことができた。自分自身、立候補者としては八戸工業大学卒業、その名を汚さぬよう一生懸命戦い頑張った。そして今、新人県議会議員として、八戸工業大学卒の経歴に誇りと自覚を持ち活動して行く決意である。

「八戸へ感謝」- 八戸工業大学 同窓会理事 工藤 嘉範 -

土木工学科第一期生として入学、多くの偉大な恩師に導かれ、沢山の友人に恵まれ、八戸の文化に触れ育て

馬の転機は、議員生活三十二年の父引退によるものであるが、五十歳を目前にしての決断は家族を巻き込んで、人生のターニングポイントであった。選挙期間中は、未熟なこの私に実に多くの励ましと貴重なご意見を頂戴し、父が長い間歩いてきた道の、壮絶さ偉大さ、多くの方々から愛されてきた日々の感謝が日ごとに増し、大変な重圧も感じたが、おかげさまで多くの方々から、今回の選挙は父同様の応援を賜り、秋田県議会議員初当選の栄誉を皆様から与えて頂くことができた。自分自身、立候補者としては八戸工業大学卒業、その名を汚さぬよう一生懸命戦い頑張った。そして今、新人県議会議員として、八戸工業大学卒の経歴に誇りと自覚を持ち活動して行く決意である。



迫井 裕樹 助教

化イオンの浸透抵抗性）に関する研究に取り組んでおり、また本学に赴任後新たに、再生骨材や副産物の有効利用に関する研究にも取り組み始めました。教育面では、建設材料、コンクリート工学設計、実験を主に担当しています。講義

に関して、まだまだ不慣れな部分もありますが、本学の学生が大きくなる成長するよう、精一杯取り組んでいきたいと思っております。最後になりましたが、八戸工業大学 環境建設工学科がさらに発展するよう、同窓生の皆様、諸先生方とともに、盛り上げていきたいと思っております。まだまだ不慣れな部分もありますが、諸先生方、同窓生の皆様のご助言を頂きながら、教育、研究活動、社会貢献に精一杯取り組んでいきたいと思っております。今後とも宜しくお願い致します。

平成十九年度支部会・分会報告

今年も、各地域で支部会および分会が開催されました。今年は大分県から、各支部・分会に教職員を積極的かつ計画的に派遣していただきました。支部により異なりますが、大学代表（学長ほか）、教職員（一〜四名、複数学科）、同窓会役員・事務局（一〜二名）が出席しました。日頃疎遠になりつつある恩師や同窓生同士との交流や情報交換を深めながら、同窓であることの絆を再確認し、いずれの機会も大いに盛り上がる会となりました。

来年度の教職員の派遣予定については、三月発行の会報や大学HPにて連絡する予定ですので、お見逃し無く。また、是非派遣していただきたい教職員がおりましたら、本部などにご要望ください。

東北支部総会 五月二六日（土）

◎一八時三十分から

△ホテルユニバース仙台（仙台市）
■同窓生三十四名 教職員十名



東北支部総会 写真

◎開始時刻 △開催会場 ■参加人数

秋田支部総会 六月三日（土）

◎一八時から

△協働大町ビル（秋田市）
■同窓生十六名 教職員六名



秋田支部総会 写真

北海道道東分会 三月二四日（土）

◎一八時から

△ふく井ホテル（帯広市）
■同窓生十四名 教職員一名

北海道道南分会 四月一四日（土）

◎一八時四十五分から

△花水季（函館市）
■同窓生十五名 教職員四名

北海道支部総会 五月一九日（土）

◎一九時から

△ロイトン札幌（札幌市）
■同窓生四十名 教職員九名



北海道支部総会 写真

シビル会総会のお知らせ

平成十九年度シビル会総会を十月十三日（土）十七時〜八戸グランドホテルにて開催致します。多数の卒業生の参加を待ちしております。詳細が決まりましたら、案内メールの配信および環境建設工学科ホームページに掲載致します。

参加希望の卒業生は鈴木まで連絡を下さい。

なお、昨年の総会において今年度の開催日を十一月第二土曜日（または「土木の日」＝十一月十八日）に決めましたが、本部総会が十一月十日（土）に開催することから日程を変更しました。

ご了承下さい。

電話 : 0178-25-8067
ファックス : 0178-25-0722
メール : tsuzuki@hi-tech.ac.jp
環境建設工学科ホームページ
http://web.civil.hi-tech.ac.jp

同窓会事務局から

▼ご家族の方へ
年二回本誌同窓会会報をご送付いたしておりますが、ご家族の方が見て同窓生本人が見ていないことがあるようです。お手数ですが、ご子女に了承いただき同封のハガキにご子女現住所等必要事項をご記入のうえ、ポストへご投函下さるようお願いいたします。

▼同窓生の皆様へ

会報が届かない、見たことがないといった同窓生がおりましたら、八戸工業大学同窓会事務局まで、電話またはメールで送付先（氏名、現住所、学籍番号または卒業年科）を連絡するようお願いいたします。また、現住所等変更になりましたら、速やかに同窓会事務局までご連絡下さるようお願いいたします。

同窓会事務局の連絡先（各種連絡先としてご利用ください）

本部事務局（学務部学生課）

TEL: 0178-25-8027

E-mail: dosokai@hi-tech.ac.jp

機械工学科・産業機械工学科・機械情報技術学科（機械情報技術学科事務室）

TEL: 0178-25-8010

E-mail: dosokai-m@hi-tech.ac.jp

電気工学科・電気電子工学科（電子知能システム学科事務室）

TEL: 0178-25-8020

E-mail: dosokai-e@hi-tech.ac.jp

土木工学科・環境建設工学科（シビル会事務室）

TEL: 0178-25-8067(8030)

E-mail: dosokai-c@hi-tech.ac.jp

建築工学科（建築工学科事務室）

TEL: 0178-25-8040

E-mail: dosokai-a@hi-tech.ac.jp

エネルギー工学科・生物環境化学工学科（生物環境化学工学科事務室）

TEL: 0178-25-8050

E-mail: dosokai-p@hi-tech.ac.jp

システム情報工学科（システム情報工学科事務室）

TEL: 0178-25-8080

E-mail: dosokai-i@hi-tech.ac.jp

地域情報メディアセンター検討開始

本学の創立三十周年・大学院完成事業として計画した「地域情報メディアセンター」建設に向けた募金活動が、今年三月をもって終了しました。同窓会を始め、本学を支えて下さる皆様の御厚情に改めて感謝申し上げます。

四月にセンター整備に関わるワーキング・グループを設置するなど、現在、当初計画を基に募集金額を有効に反映させた具体的な構想の検討を進めています。

今後とも御支援御協力をお願い申し上げます。

八戸工業大学学長 庄谷 征美